



# 国際保健学

## International Health

### 国際保健政策学 *Global Health Policy*

<http://www.ghp.m.u-tokyo.ac.jp>

教室のミッションは、国内外問わず保健プログラムの説明責任や科学的根拠に基づいた政策を推進し人口レベルでの人々の健康を増進することである。教室のメンバーは常に新しい知識やアイデアを生み出し、専門性及び指導力を発揮しグローバルヘルスの実践ためのスキルを磨く。共同研究を通じ発展途上国のキャパシティービルディングにも貢献する。そして、最も大切なことは、グローバルヘルスの次世代のリーダーを育成することである。すべての講義は英語で行われ、討論やプレゼンテーション能力の向上をも伴わせている。

主な研究課題

- ヘルスアウトカム研究  
死亡、疾病・障害、保健サービス、費用効果分析、資源（人材、財源）、インパクト評価、モニタリング
- ヘルスシステムパフォーマンス評価  
保健システムのインプット（財政、人材に関するエビデンス）、アウトプット（保健介入の効果的デリバリー）及びインパクト分析
- 保健・外交政策研究  
国際保健の構造とガバナンス、G8 主要先進国と国際保健、ドナーコミットメント



### 国際地域保健学 *Community and Global Health*

<http://www.ich.m.u-tokyo.ac.jp/jindexframe.htm>

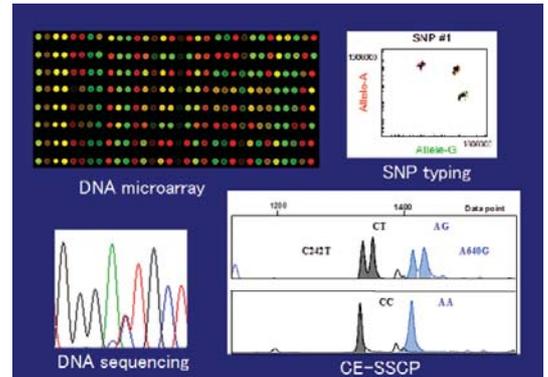
国際保健学・国際保健活動の分野で、発展途上国や国内外の研究機関、政府機関、国連・国際機関、NGOなどに携わる人材を育成するとともに、国際協力のあり方や国際保健（医療）の質的向上を目指すための研究（方法論の開発も含む）を行っている。

- ヘルスプロモーション
- 健康と人権
- 紛争と健康
- 学校保健
- 感染症（エイズ、結核、マラリアなど）
- 栄養
- 世界の保健政策が人々の健康に与える影響
- 世界の保健人材



ゲノム研究の方法論を導入した人類遺伝学的アプローチに基づき、アジア集団を中心とした人類集団の遺伝学的多様性を明らかにするとともに、運動器変性疾患、感染症、睡眠障害をはじめとする各種多因子疾患の遺伝素因・病態の解明を進めている。

- 多因子疾患の遺伝的背景解明のための理論的・実験的検討
  - 疾患感受性遺伝子検出のための遺伝統計学的方法論の開発
  - 運動器変性疾患のゲノム疫学
  - 感染症の宿主側要因の解明
  - 睡眠障害の遺伝素因の解明
- ゲノム多型解析システムの開発
- アジア系集団のゲノム多様性とその成因の解明
- タンパク質相互作用解析法の開発



ゲノム解析の方法

発達医科学 *Developmental Medical Sciences*

母子保健学教室として1966年に設立され、母子の健康の維持増進（特に感染症・栄養障害・先天異常）にかかわる研究・教育活動を行ってきた。現在は主として発達障害（知的障害・運動障害）やてんかんをきたす小児期脳障害（先天性および後天性）の病因（遺伝および環境）・病態・予防・治療に関する研究を、国際保健学・発達神経科学の立場から、実験的・調査的手法を用いて進めている。

- 発達期脳障害に関する研究
  - 神経細胞の分化・サイズ調節の異常（結節性硬化症）
  - 神経細胞移動障害（滑脳症、多小脳回）
  - 周生期脳障害（脳室周囲白質軟化）
  - 出生後脳障害（急性脳症）
  - 先天代謝異常症（ペルオキシソーム病、ミトコンドリア病）
- 感染症の分子疫学的研究（下痢症ウイルス）
- 母子の健康に関する疫学調査（栄養障害、肥満など）



神経細胞の移動を調節する蛋白 doublecortin は胎児期の神経系で特異的に発現する。

人類生態学 *Human Ecology*

現代の様々な人間集団を栄養・人口・環境を切り口として解析し、人間集団の健康・生存を生態学的に理解することを目的とする。アジア・オセアニア諸集団を対象とするフィールドワークと同時に、栄養・環境化学物質の影響を扱う実験的研究を行い、両者の成果をもとに、国際保健が直面する諸問題の解決に貢献することを目指している。

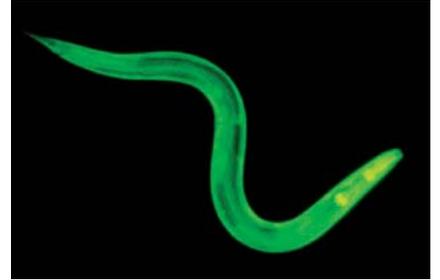
- アジア・オセアニア諸国における生業の変化が健康・環境に与える影響のメカニカルな解析
- GPS・GIS・リモートセンシングの健康生態学・国際保健学への応用
- インドネシアにおける河川の複合化学汚染が小児の健康に及ぼす影響
- アジア・オセアニア諸集団における栄養生態学、生業生態学、生物人口学、医療人類学の研究
- 周産期における重金属あるいは内分泌攪乱化学物質の発達毒性
- 栄養素・栄養状態による環境中化学物質の毒性修飾とその機構解明
- 持続可能社会と健康



西ジャワ調査地の小学生

研究室の方針は「基礎研究を通して人類の向上と福祉をめざす事」であり、代謝調節と生体膜の生化学および分子生物学などの純粋な基礎生物学的研究とともに国際的な医療問題に対する共同研究を含めた指導、調査による研究室外の活動（発展途上国や先進国）を積極的に進めている。

- ヒトコハク酸脱水素酵素複合体とミトコンドリア病
- 回虫および *C. elegans*
- 酸素適応における核およびミトコンドリア遺伝子の発現調節機構
- 複合体IIアイソフォームの構造と機能
- *C. elegans* を用いた遺伝子導入および遺伝子破壊
- マラリア原虫およびトリパノソーマのミトコンドリア局在酵素群の解析と薬剤の開発
- 大腸菌と結核菌の呼吸酵素とエネルギー代謝の調節
- RNA と RNA 結合タンパク質
- ミトコンドリアのタンパク質合成系
- 真核生物と古細菌の RNA 生合成



自由生活性線虫 *C. elegans* での、呼吸鎖複合体IIの鉄イオウクラスターサブユニット遺伝子のプロモーター制御下における、組換え緑色蛍光タンパク質の発現